

災害から市民を守る、 高度救助隊の思い



まちや住民を火災や災害から守るため、日夜訓練に励む消防士。その中に、高度救助隊という組織があることをご存じでしょうか。高度救助隊とは、大規模災害や特殊災害において人命救助を行う、高度な専門知識をもった救助隊員と高度救助資機材を配備した部隊です。

刈谷消防署は、複雑多様化する災害に対応すべく消防力のさらなる強化を図るため、令和4年11月1日から高度救助隊の運用を開始しています。市内には多くの工場が立地しているため、特に化学物質漏えいなどの特殊災害に対応できるよう日々の訓練を重ねています。また、緊急消防援助隊として全国に出動する体制も整えています。

今回は刈谷消防署で活躍する刈谷市出身の高度救助隊員をはじめ、消防職員がどのような思いで業務に臨んでいるかに迫ります。

問 刈谷消防署 (☎23-1119)

大好きな刈谷を守る覚悟



高度救助隊の1日

- 8:30 勤務開始、前日勤務の職員からの引き継ぎ、係内ミーティング、スケジュール確認
- 8:45 車両の出動点検
- 10:00 資機材取扱いなどの基本訓練
- 11:30 訓練の反省、改善点の話し合い
- 12:00 昼休憩
- 13:00 災害現場を想定した応用的な訓練
- 15:30 訓練の反省、改善点の話し合い
- 16:00 夕食作り
- 17:15 夕食 夕食時以降は出動が集中しやすいため、一般の人の食事と少し時間をずらします。
- 18:30 日中できなかった内容を中心に訓練
- 19:30 入浴、体力錬成
- 20:30 各自事務処理（報告書や訓練計画の作成）
- 0:00 交代で仮眠
- 6:30 起床、庁舎内清掃、朝食
- 8:30 当日勤務者へ引き継ぎ、勤務終了



高度救助隊
おいかわ ゆうた
及川 裕太 消防司令補

平成21年度入局
雁が音中出身

多様化する災害を研究し、対応する

地元の刈谷市に携わり貢献したいという思いと、兄が消防士になったことから、自分も消防士を志しました。

今では隊長としてチームを指揮することも多く、現場の状況を判断し、自分の考えた作戦をチームに的確に伝えられるように日々取り組んでいます。また高度救助隊として、多様化する災害に備え、各地でどんな事例があったか、自分たちの装備でどんなことができるかなど、研究も欠かせません。

危険な現場から救出した方が消防署を訪ねてくださることもあり、これまでと変わらない生活ができていると分かったときは最高の喜びを感じます。

刈谷消防署には高度救助隊を発足させた伝説の名物消防士がいました。そんな名物消防士に近づくことができるように、事例研究や訓練に励んでいきたいです。



高度救助隊
がの ゆうた
鴈野 裕太 消防士長

平成25年度入局
刈谷南中出身

自分たちが最後の砦^{とりで}

小学生の時に新潟県中越地震が発生し、救助活動を行っている救助隊員の様子をテレビで見てカッコいいと思い、消防士に興味を持ちました。

刈谷消防署の救助係は、高度救助隊が配置されており、近年多発している自然災害をはじめとした震災や土砂災害に対応するために、高度な知識や技術、救助資機材を取り扱います。当局で発生した災害現場に「人命救助の最後の砦」として災害対応をする部隊であるため、災害現場において絶対に要救助者を助けるという強い気持ちで日夜訓練に取り組んでいます。

今後は、後輩の指導・育成に力を入れつつ、救助隊長として現場を指揮していけるような人材になるため、日々の業務に取り組んでいきます。